

理施設広域化に伴う基本計画を策定することになっているが、施設建設にあわせて余熱利用による温水プールの建設を考へては。

安

全

度を活用するため、エネルギー回収施設としての位置づけを行なう必要がある、熱回収の利用方法の一つとして考へ、焼却の規模とあわせて検討します。

花の木中学校前の  
交差点改良について

問 福村 市道第八〇号、第九七号線で右折（富士見市方面）車両による渋滞が生じる。時差式信号機と右折帯の設置を。

答 都市計画マスタープランに位置づけ、検討します。

上福岡駅東口のコンクリートブロックは危険

問 山口 上福岡駅東口はタクシープールのコンクリートブロックのため、交通安全上危険な状況にある。対策を講じるべき。

答 指摘のあったブロックは、夜間は見えにくいという問題があるため、反射板などを設置し、危機管理を徹底いたします。



駅東口のコンクリートブロック

藤間北野歩道橋を自転車  
車が通れるよう改善を

問 岸川 藤間北野歩道橋の防犯及び補修実施にかかわる川越市等の対応は。

答 川越市と協議を重ねて、平成二十年十二月までに、修理の工事発注をする予定です。

通学路上の信号機を  
LED式に

問 堀口 発光ダイオード式(LED)信号機は、西日などの太陽光の影響を受けにくい。通学路上にある信号機をLED式にかえていくべき。

答 信号機をかえることについて、東入間警察署と協議しています。太陽光の影響を受ける箇所については、警察と調整を図って対応します。

飲酒運転防止にハン  
ドルキーパー運動を

問 堀口 罰則が強化されたにもかかわらず、飲酒運転による事故・悲劇が繰り返されている。市としての啓発と、ハンドルキーパー運動を

パー運動への取り組みは。交通安全対策協議会などと連携し、飲酒運転・無謀運転を追究する啓発活動を展開しています。ハンドルキーパー運動は市報等で紹介し、推進していきます。

犯罪ゼロ宣言と  
犯罪ゼロの日の制定を

問 岸川 市が犯罪ゼロを目指す姿勢を示すために、犯罪ゼロ宣言を行なうてほしい。犯罪ゼロの日を制定して、犯罪ゼロのまちづくりを。

答 犯罪撲滅の日として実施を検討します。

食の安全管理を

問 塚越 消費者行政の体制の抜本的強化を図り、食の安全を図るための危機管理の確立を。

答 消費生活相談員を本庁に統合することで、週五日のうち二日間は二人体制にします。有給研修日も一日増やします。国民生活センターとネットで接続して対応します。危機管理には職員の「気づき」が大切であり、意識改革が必要です。通常では想定

できないケースもあるので、システムを考へていかねばなりません。

専門窓口づくりを

問 高橋 食の安全と地産地消の重要性については、食品表示の偽装問題や、冷凍ギョーザの中毒事件などに対する消費者の視点を生かすため、食の専門窓口をつくり、早急に対応できないか。また、自給率を上げるよいチャンスとは言えないか。

答 相談窓口は、消費生活センターで行ないます。食料の未来を確かなものとするため、食料問題に関する認識を深め、関係者が一体となり取り組めます。

学校AEDの使用は

問 野沢 学校校舎内に設置してあるAEDについて、社会体育で休日に校庭を利用しての方が使用する場合、どのように学校内に入りAEDを使用するのか。

答 緊急にAEDを使用する場合、休日は学校は無人ですので、窓ガラスを破ってAEDを使用することになります。

まちづくり

合併記念日の制定を

問 小峰 合併後、二年六カ月が経過した。地域において、さまざまな団体活動を通して融合が図られているが、さらに市民一体感の醸成を推進するには、合併記念日の制定や、ふじみ野市ふるさと音頭等を作成し、新しい文化を創造することが必要ではないか。

答 合併は、地域が大きく変貌し、さらなる発展のためのスタートとなりました。合併記念日、ふるさと音頭等は、市民相互の融合を図る上で有効になると考へています。

まちづくり  
市民の声を生かせ

問 鈴木 上野台団地の跡地利用について、幅広い観点から進めるべきだが、市の考へを示しては。

答 良好な住環境の創出や隣接地との整合性を踏まえた公共施設整備、土地利用のゾー

狭い市道の拡幅を

問 塚越 旧大井給食センターから川越街道までの狭い市道の拡幅については、当面できる方策と中長期の方針を

ニング及び景観整備を検討するように都市再生機構に要請します。

もって進めてもらいたい。

問 旧大井町の計画では、地区幹線道路として位置づけられています。現在策定中の都市計画マスタープランに位置づけられます。平成二十年度から、富士見市と道路の協議を始めてます。当面は待避所をつくるため、塀を退けて現道をふくらませたり、民有地を借り上げて拡幅等、できることから行ないます。

拡幅が望まれる旧大井給食センター脇の市道



巡回バスは  
ライフモビリティを

問 岸川 巡回バスは、コストや費用対効果から考えると、本当にいいのかという声もある。私は「ライフモビリティ(乗り合いタクシー)」を提案する。合員制、予約制、乗り合い制で通常のタクシーに比べて安い料金で運行することができ。さらに、生活支援サービス(買い物代行など)にも事業を拡大することが期待できる。当市においてもいかがか。

答 新しいシステムとして検討します。

大型店、チェーン店も  
美化事業へ参加を

問 松尾 大型店、チェーン店へも、商工会が行なう美化事業への参加の促しを。

答 大型店、チェーン店にも県が定めたガイドラインに沿って、参加を促します。

災害時要援護者の  
掌握とサポートを

問 伊藤 災害時要援護者の掌握とサポートに、早急に

集中改革プランの  
達成状況は

問 高畑 厳しい財政状況の中、集中改革プランの達成状況は。

答 改革推進項目一〇二項目のうち、実施数が六十二項目で達成率六〇・八%、効果額は約一〇億九、〇〇〇万円です。

今後の改革施策は

問 高畑 今後の具体的な改革施策は。

答 公共施設再配置計画の策定、総合振興計画及び予算編成等と連動して、事務事業の評価のため、行政評価制度を試行し、より一層の改革効果を出したいと考へています。